

極性反義語の用例分布とその解釈

The Distribution of Polar Antonyms in Corpora and its Implications

服部匡(同志社女子大学表象文化学部)

Tadasu Hattori (Doshisha Women's College of Liberal Arts)

1. はじめに

極性反義語(polar antonym)とは、「大きい-小さい」のような対関係にある語である(Cruse(1986))。対のそれぞれを大値語、小値語と呼ぶことにする。これらの語対は、基本的用法では、例えば、(1)には必ずしも前提がないが(2)には対象が小さいという前提があるといった非対称性を示す。これらの語はまた、基本的用法の他にさまざまな抽象的・比喩的用法を持っている。

(1) どのくらいの大きさ?

(2) どのくらいの小ささ?

服部(2011a,b,2012)では、程度的な側面を持つ名詞と共起する場合の量的形容詞類(多くは極性反義語にあたる)の種類別の出現傾向を分析したが、本発表では、観点を変えて、(基本的用法での)極性反義関係を軸とした用例分布の観察・分析を行う。関連した問題は、西尾(1972)、久島(2001,2002)、鍋島(2011)などで扱われている。

本発表では(3)の各形容詞対¹をとりあげ、それぞれ、大値語・小値語の用例数比率が、主語名詞の種類によってどのような相違を示すかを観察分析する。比較のため、存在表現の「ある-ない」、および、「濃厚(ダ)-希薄(ダ)」についても観察する。

(3) 大きい-小さい、高い-低い、強い-弱い、多い-少ない、濃い-薄い、広い-狭い、深い-浅い、長い-短い、太い-細い

コーパスとしては、新聞記事のデータ²(テキストとして約6GB)を使用する。その理由は、データのサイズが大きいことと、抽象的な名詞の出現頻度が高いことである。

2. 分析手順

分析の手順は次のとおりである。各新聞記事データに MeCab(0.994)と電子辞書 UniDic(1.3.12) による形態素(短単位)解析を施し、プログラムと手作業によって(4)に当たる用例を調査対象として抽出する。

(4) 名詞類+{が/は}+形容詞(終止連体形)

ただし当該名詞類を終端とする名詞句が形容詞と主述関係を構成している例に限る。名詞類とは、名詞・名詞性接尾辞の短単位要素を指し形式的なものも含む。

こうして得られた用例数を、名詞類・形容詞の組により集計する。詳細なデータは、服部(準備中)を参照されたい。

¹ 「多い」では(1)の場合「多さ」ではなく「数」などが用いられる。また「薄い」は「濃い」の他に「厚い」等とも、また、「高い」は「低い」の他に「安い」とも反義関係を持つ。

² 毎日新聞(1999-2005年)、読売新聞(1987-1991年、2000-2008年)、朝日新聞(1988-1998年)の記事データ。各新聞社の許諾を得て研究用に利用している。

3. 極性反義語の用例分布

各形容詞対との合計共起用例数の多い名詞類を 50 ずつ取り出し³、各名詞類に対する、大値語・小値語の用例数の比率を示すと以下の各図のようになる。数値は、大値語の比率(大値語用例数/(小値語用例数+大値語用例数))である。分布の傾向により、タイプに分けて示す。

多くの形容詞対では大値語との共起に偏る名詞類が多いが、「薄い-濃い(厚い)」の対では、逆に、小値語との共起に偏る名詞類が多い。また、「広い-狭い」と「太い-細い」は中間的であり、大値語と小値語に関して対称的に近い分布を示す。

(A) 大値語傾斜型

多くの形容詞対はこのタイプの分布を示す。このタイプでは、大値語とのみ、または主に大値語と共起する名詞類が大部分である。たとえば「小さい」ものは注意を引きにくく「大きい」ものは目立つというように、極性反義語(の、少なくとも、基本的用法)では大値語の方が目立つ特性を表わしていることを反映したものと思われる。

中でも、特に「強い-弱い」と「深い-浅い」では大値語との共起例しかない名詞類の比率が高い。偶然ではなく語の特徴として大値語としか結びつかないものが多いようである(図 1・図 2)。「強い」での当該名詞は、多く、心情や感じに関わるものである⁴。

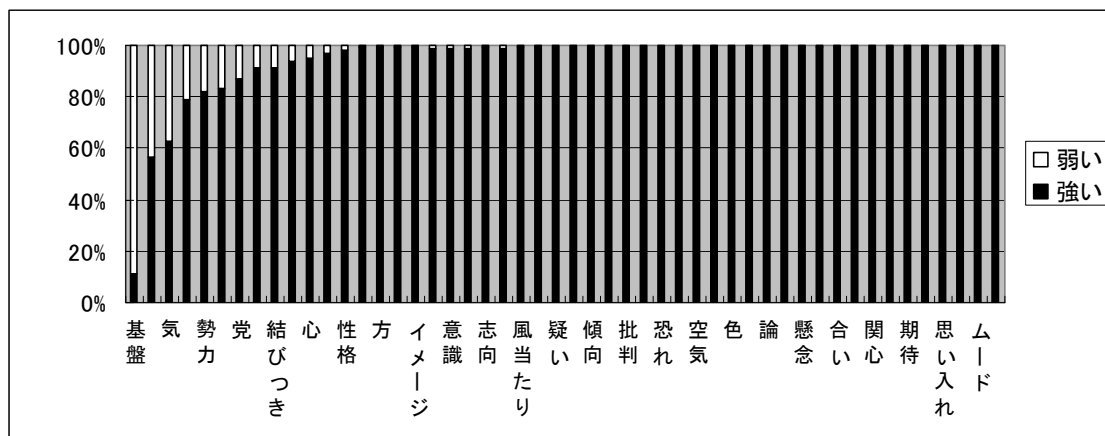


図1 「強い/弱い」と各名詞類との共起傾向(用例数：11,594 から 285 まで)

名詞類(左から)：基盤、力、気、毒性、勢力、風、党、面、結びつき、意欲、心、影響、性格、性、方、感、イメージ、印象、意識、気持ち、志向、抵抗、風当たり、見通し、疑い、声、傾向、思い、批判、反発、恐れ、意見、空気、要望、色、不満、論、色彩、懸念、側面、合い、要素、関心、反対、期待、不安、思い入れ、甘み、ムード、気分

³ ただし用例数の少ない形容詞対については、50 よりやや少ない数まで。

⁴ この場合、「強くある」という表現が存在する。「強い」(の一部)は、「多い」と同様、一種の存在表現とみなしうる可能性がある。

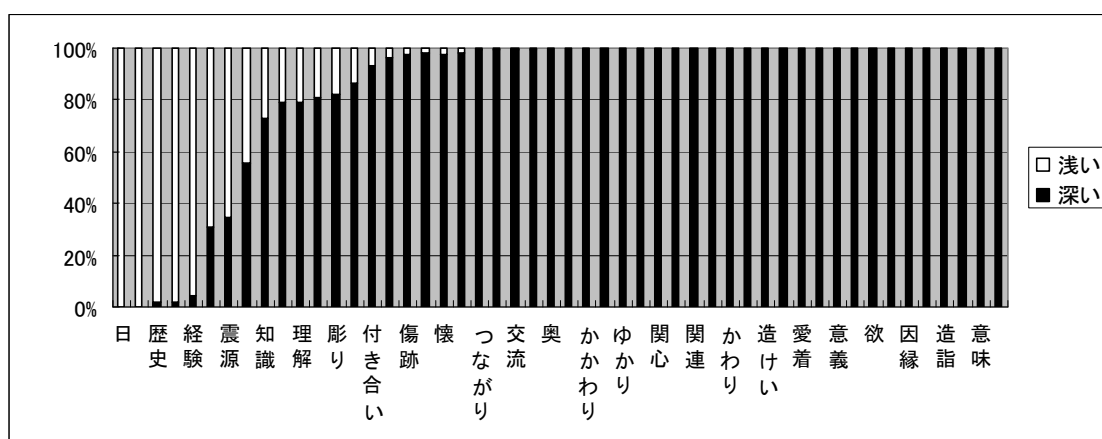


図2 「深い浅い」と各名詞類との共起傾向(用例数：2,212 から 31 まで)

名詞類：日, キャリア, 歴史, 眠り, 経験, 底, 震源, 水深, 知識, 傷, 理解, 方, 彫り, 奥行き, 付き合い, 根, 傷跡, 溝, 懐, 雪, つながり, なじみ, 交流, 関係, 奥, 縁, かわり, 悩み, ゆかり, 感, 関心, 思い, 関連, 親交, かわり⁵, 思い入れ, 造り, 苦労, 愛着, 結びつき, 意義, 感慨, 欲, 罪, 因縁, 悲しみ, 造詣, 愛情, 意味, 印象

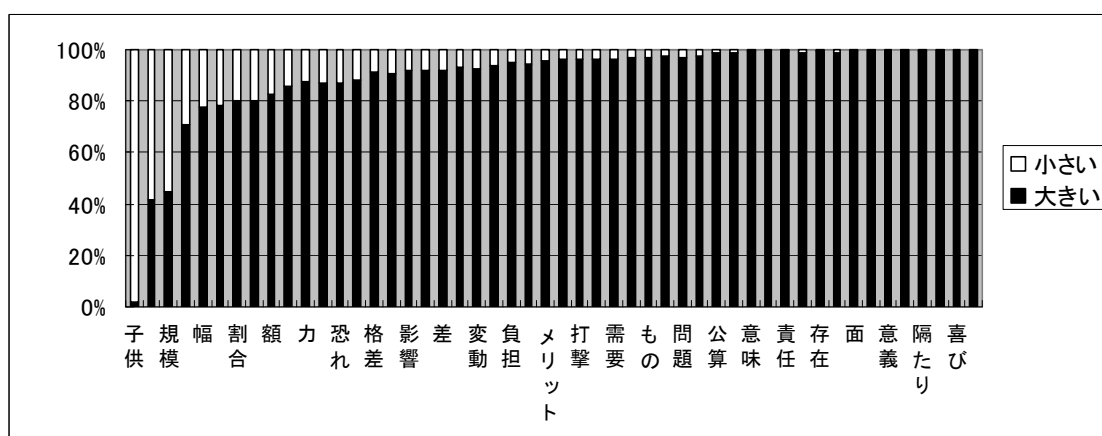


図3 「大きい小さい」と各名詞類との共起傾向(用例数：9,236 から 273 まで)

名詞類：子供, 体, 規模, 声, 幅, スケール, 割合, 率, 額, 性, 力, 余地, 恐れ, リスク, 格差, 比重, 影響, 効果, 差, 危険, 変動, 被害, 負担, 部分, メリット, 感, 打撃, ダメージ, 需要, 不安, もの, 衝撃, 問題, 方, 公算, こと, 意味, 役割, 責任, ショック, 存在, 違い, 面, 期待, 意義, ところ, 隔たり, 功績, 喜び, 反響

⁵ 「かわり」の誤解析であるがそのままにしておく。

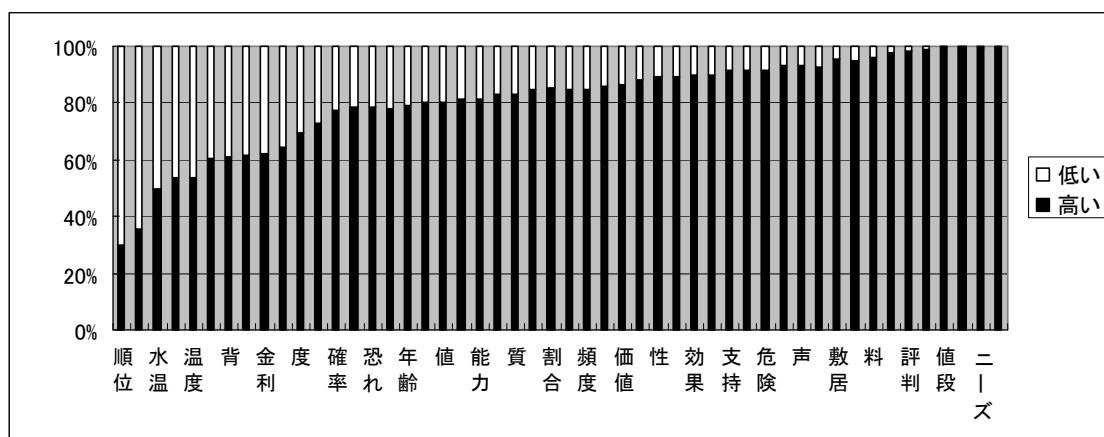


図4 「高い/低い」と各名詞類との共起傾向(用例数：53,525 から 335 まで)
 名詞類：順位, 度合い, 水温, 意識, 温度, 気温, 背, 水準, 金利, 率, 度, 濃度, 確率, コスト, 恐れ, 精度, 年齢, レベル, 値, 比率, 能力, リスク, 質, 関心, 割合, 力, 頻度, 評価, 価値, 倍率, 性, 方, 効果, 価格, 支持, ハードル, 危険, 需要, 声, 比重, 敷居, 費, 料, 期待, 評判, 人気, 値段, 料金, ニーズ, 呼び声

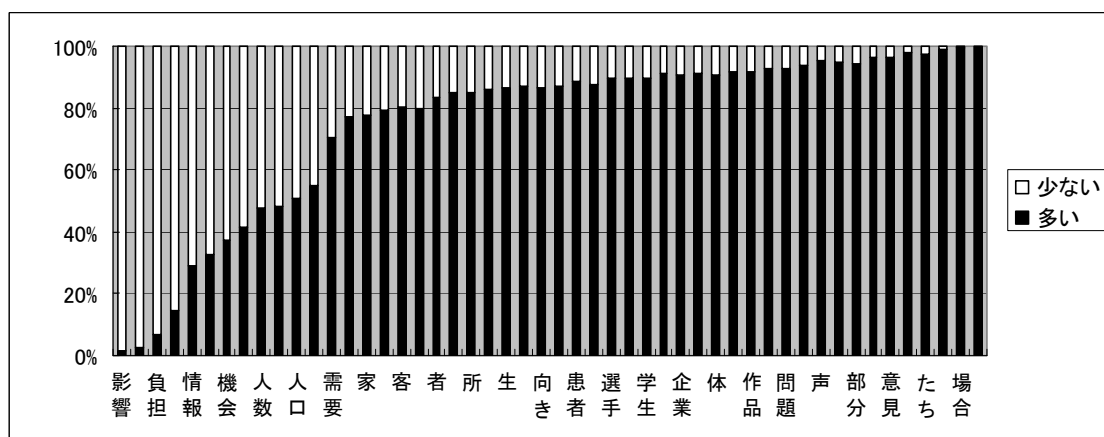


図5 「多い/少ない」と各名詞類との共起傾向(用例数：32,762 から 746 まで)
 名詞類：影響, 性, 負担, 時間, 情報, 人通り, 機会, 額, 人数, 数, 人口, 量, 需要, 例, 家, 店, 客, 利用, 者, 議員, 所, 国, 生, 人, 向き, 生徒, 患者, 若者, 選手, 女性, 学生, もの, 企業, 子, 体, 方, 作品, ところ, 問題, こと, 声, 日, 部分, ケース, 意見, ファン, たち, 点, 場合, 課題

「多い-少ない」に関しては、対象を数え上げる場合は「多い」との共起が多く、抽象的な量を表す場合は「少ない」との共起が多いように思われる(図5)。

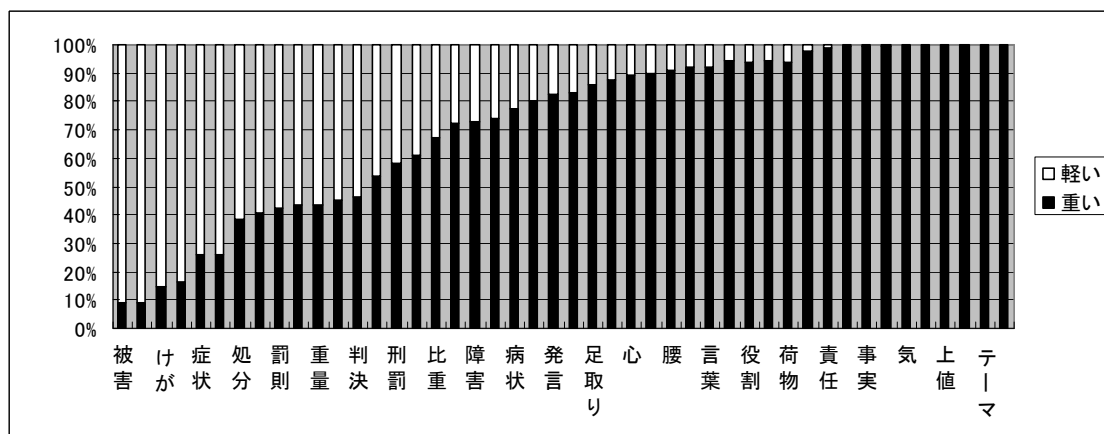


図6 「重い/軽い」と各名詞類との共起傾向(用例数：2,212 から 8 まで)

名詞類：被害, 作用, けが, 手, 症状, 程度, 処分, 度, 罰則, 体重, 重量, 量刑, 判決, 刑, 刑罰, 体, 比重, 負担, 障害, もの, 病状, 足, 発言, 方, 足取り, こと, 心, 罪, 腰, 口, 言葉, 頭, 役割, 結果, 荷物, 点, 責任, 荷, 事実, 課題, 気, 意味, 上値, 責務, テーマ, 使命

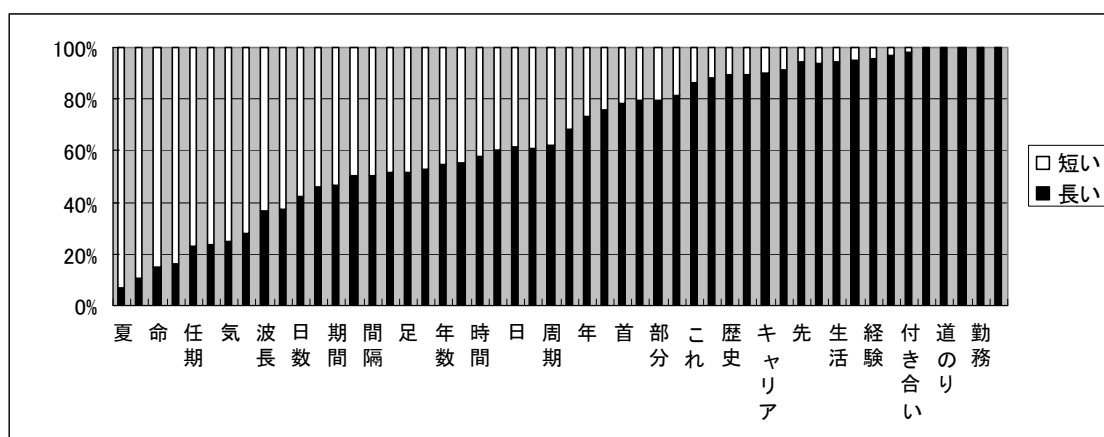


図7 「長い/短い」と各名詞類との共起傾向(用例数：2,370 から 19 まで)

名詞類：夏, 余命, 命, 工期, 任期, さ, 気, 丈, 波長, 期限, 日数, 距離, 期間, 寿命, 間隔, 間, 足, 時期, 年数, 手足, 時間, 人生, 日, 髪, 周期, 期, 年, 尾, 首, 夜, 部分, 年間, これ, 歴, 歴史, シーズン, キャリア, それ, 先, 方, 生活, 私, 経験, ほう, 付き合い, 畑, 道のり, 息, 勤務, 暮らし

(B) 均衡型

「広い-狭い」、「太い-細い」の2つの形容詞対がこの型に属する。大値語との共起に偏る名詞類と小値語との共起に偏る名詞類の数が拮抗している。また、特に「広い-狭い」では、名詞類により大値語の共起比率が0%から100%まで連続的に分布している(図8)。「太い-細い」は、「食が細い」などの慣用句以外では抽象的・比喩的に用いられることがあまりなく、いわば汎用性に欠ける。

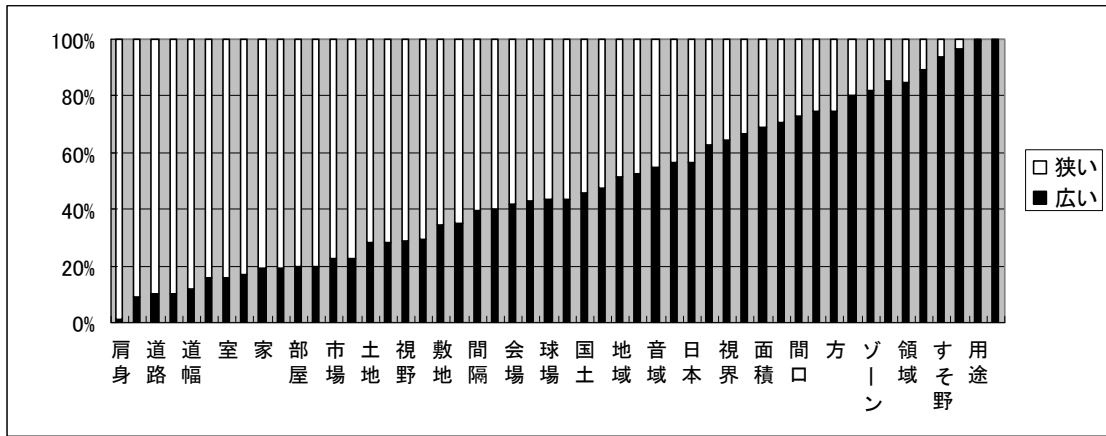


図8 「広い/狭い」と各名詞類との共起傾向(用例数：1,255から31まで)

名詞類：肩身, 通路, 道路, 住宅, 道幅, 道, 室, 場所, 家, グラウンド, 部屋, 門戸, 市場, 地球, 土地, 歩道, 視野, スペース, 敷地, 川幅, 間隔, エリア, 会場, 場, 球場, 庭, 国土, 心, 地域, 世間, 音域, 空間, 日本, 区, 視界, 世界, 面積, 幅, 間口, 空, 方, 対象, ゾーン, 範囲, 領域, 分野, すそ野, 層, 用途, 顔

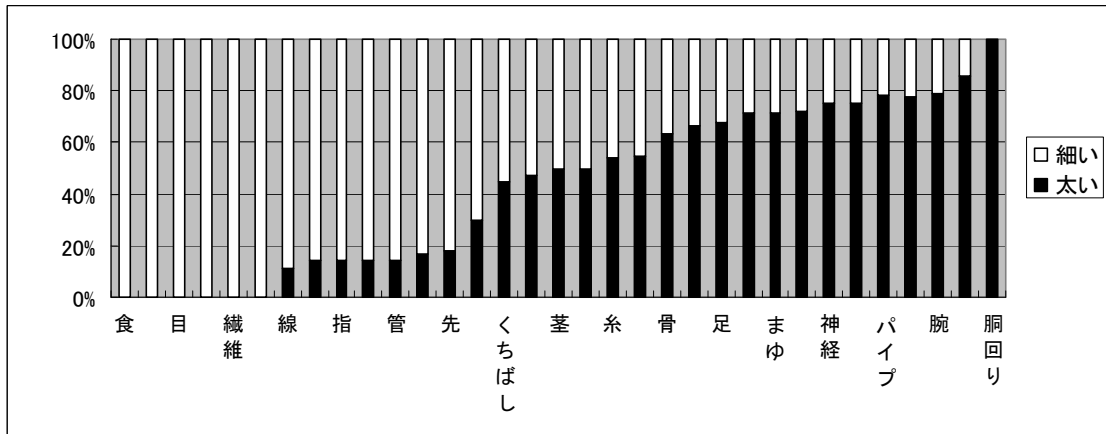


図9 「太い/細い」と各名詞類との共起傾向(用例数：177から7まで)

名詞類：食, 体, 目, 道, 繊維, 攻め, 線, 両端, 指, 幅, 管, 血管, 先, 声, くちばし, 部分, 茎, 首, 糸, 直径, 骨, ウエスト, 足, 柱, まゆ, 幹, 神経, 脚, パイプ, 方, 腕, 回り, 胴回り

(C) 小値語傾斜型

「薄い-濃い(厚い)」⁶のみが属する。小値語の「薄い」としか共起用例のない名詞類が多い。それには「望み、見込み」、「意欲、関心、意識」、「関わり、縁、なじみ、関与」など意味的に類似性のあるグループがいくつかある。

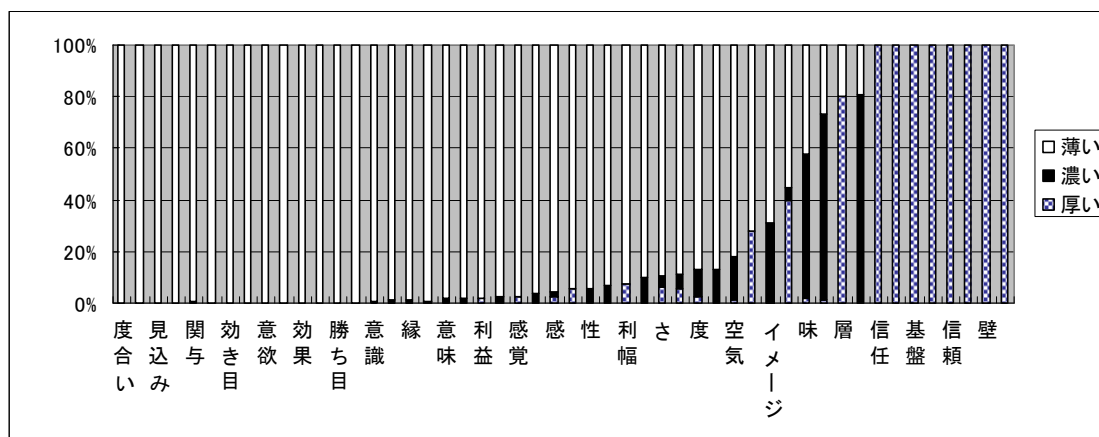


図 10 「濃い+厚い/薄い」と各名詞類との共起傾向(用例数：2,694 から 69 まで)

名詞類：度合い、根拠、見込み、望み、関与、かかわり、効き目、髪、意欲、関心、効果、意義、勝ち目、なじみ、意識、関連、縁、認識、意味、実感、利益、魅力、感覚、見通し、感、期待、性、影、利幅、印象、さ、関係、度、つながり、空気、心、イメージ、皮、味、中身、層、色、信任、支持、基盤、信望、信頼、人望、壁、人情

(D) その他

比較のため、存在表現の「ある」「ない」の分布を示すと次のようになる。「長い」「短い」などと比較的似た分布であることがわかる。

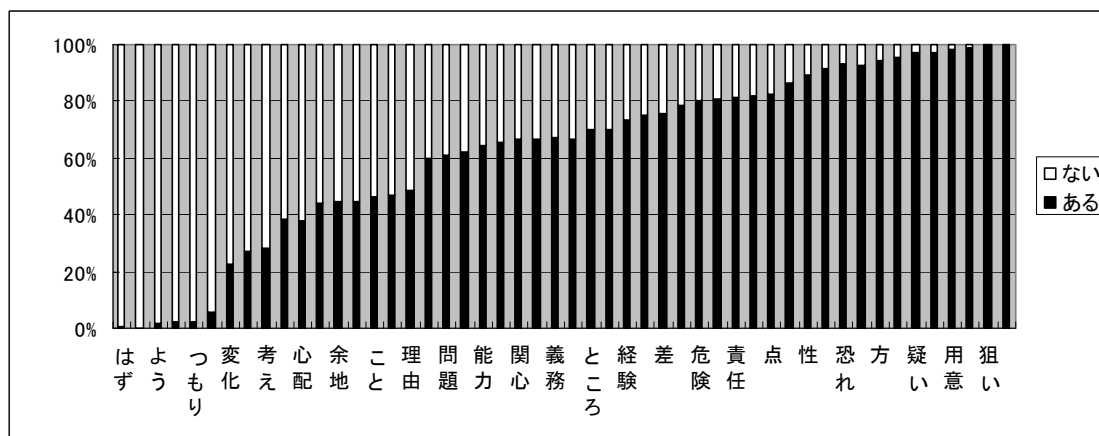


図 11 「ある/ない」と各名詞類との共起傾向(用例数：172,906 から 6,363 まで)

名詞類：はず、変わり、よう、仕方、つもり、わけ、変化、影響、考え、余裕、心配、例、余地、方法、こと、意味、理由、関係、問題、力、能力、動き、関心、もの、義務、自信、ところ、不安、経験、さ、差、違い、危険、感、責任、必要、点、効果、性、事情、恐れ、人気、方、声、疑い、面、用意、限界、狙い、経緯

⁶ 他に「篤い」と表記されるものなどが若干あると思われるが、考慮していない。

また、「薄い-濃い」との比較のため「濃厚-希薄」の分布を示すと次のようになる。「薄い」の場合とは大きく異なり、大値語に傾斜した分布であることが分かる。

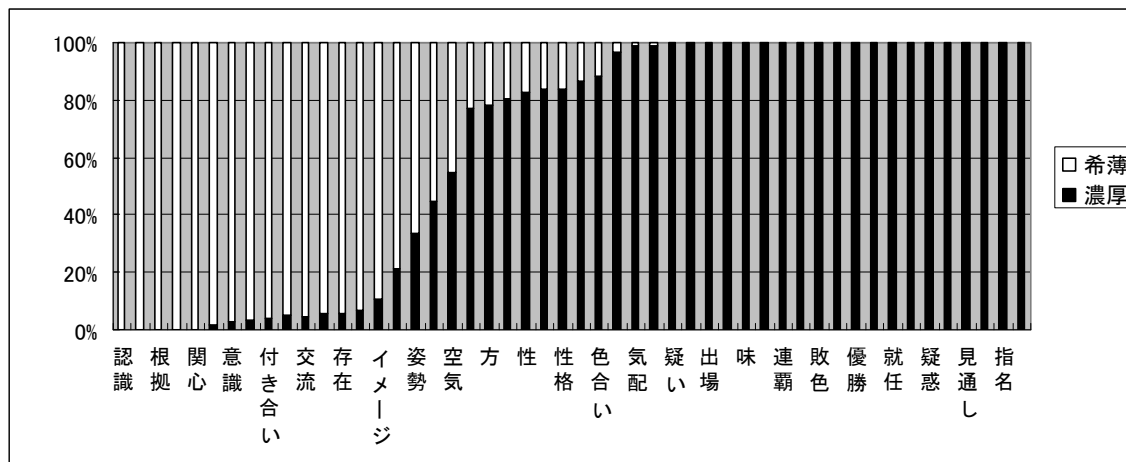


図 12 「濃厚/希薄」と各名詞類との共起傾向(用例数：403 から 13 まで)

名詞類：認識、感覚、根拠、実感、関心、つながり、意識、視点、付き合い、感、交流、関係、存在、さ、イメージ、かわり、姿勢、印象、空気、要素、方、関与、性、雰囲気、性格、色、色合い、影響、気配、色彩、疑い、こと、出場、先発、味、起用、連覇、入り、敗色、形跡、優勝、移籍、就任、線、疑惑、容疑、見通し、打ち、指名、留任

また共起名詞類を眺めると、「濃い」と「濃厚」では相違がある。「優勝が濃厚」のような言い方（「優勝の可能性が濃厚」の意）は、「濃い」には対応する用例が見えない。

4. 名詞類に対する複数形容詞対の共起パターン

ここで観点を変える。ある名詞類に対して複数の形容詞対がよく共起する場合、各形容詞対に関して大値語/小値語との共起傾向がおよそ一様である場合と、一つ(複数)の形容詞対のみ特異な傾向を示す場合とがある。表 1 を見られたい。

例えば、「疑い」や「色」は、主な共起形容詞対で一様に大値語との共起が多い。一方、「(～)性」、「(～)感」、「恐れ」などは、全体に大値語との共起が多い中で「濃い-薄い」と「多い-少ない」の対のみ小値語に偏る。同様に、「関連」では「薄い」が、「影響」では「少ない」が、例外的に高い共起度を示す。

反対に、「見込み」では、主な共起形容詞対で小値語との共起が多いが、「強い-弱い」が例外になる。

表1 名詞類と形容詞対の共起パターン

	疑い	色	性	感	恐れ	関連	影響	見込み
多い	0	55	45	1	12	28	32	0
少ない	0	18	1816	247	302	4	2000	93
高い	78	0	47888	152	346	9	5	30
低い	4	0	5670	31	95	10	28	44
大きい	11	0	4488	628	364	0	7903	6
小さい	0	0	745	26	56	0	680	13
深い	0	13	6	229	0	168	0	0
浅い	0	2	1	0	0	0	0	0
強い	7087	827	11494	4291	1405	53	407	29
弱い	0	2	102	26	0	2	13	0
濃い	708	901	72	10	1	3	39	0
薄い	16	235	1257	561	9	231	24	227

鍋島(2011)は、「可能性に関する用語」(と鍋島がみなすもの)と「濃い-薄い」などとの共起関係(内省による)をメタファー的基盤の観点から分析している。可能性に関する用語のうち「見込み・期待」など良い可能性を表わすものは「薄い」系とのみ共起し、「疑い・敗色」など悪い可能性を表わすものは「濃い」系とのみ共起するとの観察が示され、共起しない組合せは《善は白・悪は黒》というメタファーとの衝突によるとの説明が提案される。

この説明は興味深いものであり、たしかに「黒い疑惑」などの言い方の存在からも、「悪は黒」というメタファーが「疑い」と「濃い」の共起に関係していることは考えられる。

しかし、鍋島の説明の有効性には疑問の余地がある。まず、「見込み」/「疑い」は、「濃い-薄い」に関してのみ共起用例が(それぞれ)小値語/大値語の方に偏るのではなく全体的に小値語/大値語との共起に偏るのである。「見込み」という語はその値が小さい局面で用いられやすい語であり、「疑い」はその逆と思われる。また悪い事態の生起可能性に関わる語であっても、「恐れ」のように「濃い」とあまり共起しない語も存在する。

5. まとめ

基本的用法での極性反義関係を軸として、形容詞対と名詞の共起用例の分布を観察・分析し、多くの形容詞対では大値語とよく共起する名詞類が多い中、「薄い-濃い(厚い)」はその逆であること、「広い-狭い」では大値語と小値語の分布が対称的であることなどを発見した。また、ある名詞類と共起する形容詞対に対して、大値語/小値語との共起傾向が一定である場合と、一つ(複数)の形容詞対のみ特異な傾向を示す場合とがあることが分かった。「強い」「少ない」「薄い」などが例外になることが多いが、その理由の説明は、今後の課題である。

文 献

- Cruse, Alan(1986) *Lexical Semantics*, Cambridge University Press.
- 久島茂(2001) 『〈物〉と〈場所〉の対立—知覚語彙の意味体系—』くろしお出版.
- 久島茂(2002) 『《物》と《場所》の意味論 「大きい」とはどういうこと』くろしお出版.
- 鍋島弘治朗(2011) 『日本語のメタファー』くろしお出版.
- 西尾寅弥(1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版.
- 服部匡(2011a) 「程度的な側面を持つ名詞とそれを量る形容詞類との共起関係—通時的研究—」 『言語研究』140号, pp.89-116.
- 服部匡(2011b) 「名詞と尺度的形容詞類の共起傾向の推移—国会会議録のデータから—」 『同志社女子大学学術研究年報』62号, pp.113-141
- 服部匡(2012) 「名詞と尺度的形容詞類の共起頻度の推移—国会会議録のデータから—」 『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』12号, pp.1-11.
- 服部匡(準備中) 「極性反義語の用例分布」

本研究は、学術研究助成基金助成金(基盤研究(C)「有無・量的大小・増減・出現消滅の述語の総合的研究」、課題番号 23520479)および、国立国語研究所共同研究プロジェクト「コーパス日本語学の創成」による研究成果である。